

陳 情 文 書 表

(教育委員会)

受 理 番 号	1 7 3 5	受 理 年 月 日	令 和 6 年 4 月 22 日
件 名	自校調理方式による全員制中学校給食の実施等		
要 旨	<p>昨年、京都市教育委員会は、全員制の中学校給食実施に向けて検討会議の議論を経て、南区の塔南高校跡地の給食センター1か所で市内63の中学校分2万6,000食を担うという、全国最大の巨大給食センター建設の計画を出した。しかし、この間1か所で2万6,000食を担うことについては見直しを求める声が広がっている。</p> <p>また、塔南高校跡地のグラウンド部分は、元来東吉祥院公園で、一旦公園に返還すべきところであった。そのことに対して審議会を前に、巨大給食センター建設のための公園廃止に反対し公園機能の維持を望む意見書が683通、2,161件出されている。しかし、審議会では早々に公園廃止が議決された。全員制中学校給食をより良いものにしたいと願い、市の計画に対し多くの見直しを求める声がないがしろにしているとしか言えない。</p> <p>余りにも急展開の巨大給食センター建設について、いま一度、住民の声、関係者の声を聴き、塔南高校跡地に巨大給食センターが建設されることが妥当なのか考え直す必要があると考える。また、建設地決定の経緯についても疑問が残っている。2万6,000食は非現実的で、子供たちに責任を持って給食が届けられるとは思えない。検討会議の調査で自校方式可能校の一つに南区の洛南中学校が挙げられている。他の行政区でも自校方式可能校が幾つも挙げられている。この間増えた小中一貫校では中学生にも給食は提供され、既に市内では給食格差が生まれている。巨大給食センターではなく、より実施可能な中学校から始めることこそが中学校給食の早期実現につながるはずである。</p> <p>23年前に選択制で始まった中学校給食は、利用率が大変低いものだった。今度こそ、みんなが納得のいく温かくおいしい、そして親子方式を含めた自校方式給食でこそ食育の力が発揮されると思う。食育で、給食で、子供たちのこれからの人生が豊かになる中学校給食の実施を望む。</p> <p>については、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 塔南高校跡地への巨大給食センター建設を見直すこと。</li> <li>2 自校方式給食（親子方式を含む）を実施すること。</li> </ol>		
陳 情 者			
回付委員会	文教はぐくみ委員会		